平 成 23 年 度
文化アセスメント
実施結果報告書

２０１２(平成24）年９月

川崎市文化芸術振興会議

平成24年9月14日

川　崎　市　長
阿　部　孝　夫　様

川崎市文化芸術振興会議
会　長　　澤　井　安　勇

平成23年度文化アセスメント実施結果の報告について

川崎市文化芸術振興会議より、川崎市文化芸術振興条例第8条に規定された文化アセスメントについて、平成23年度の実施結果を報告します。

文化アセスメントは、市民生活の充実やまちづくりの進展に向けて取り組まれている「川崎市文化芸術振興計画」上の重要な事業を選び、それらの事業の取り組み内容について実地に確認を行いながら、事業の目的、文化芸術性、市民とのかかわりおよび効率・効果等の視点から、当該事業が有効かつ適切に実施されているか総合的に検証し、さらに目的達成のため改善すべき方向性などについて文化政策的提言を行うものです。

昨年の大震災により被災したミューザ川崎シンフォニーホールの復旧工事が順調に進み、来年4月にリニューアルオープンできることとなり安堵しておりますが、ミューザのような公共ホールのあり方について、本年6月に「劇場、音楽堂等の活性化に関する法律」（以下劇場法）が制定されました。劇場法においては、劇場や音楽ホールは単なるイベントを開催するための施設としてだけではなく、公演等を自主的に企画するとともに、それらを担う人材の養成などの機能を担うことが定められています。川崎市の文化芸術振興計画においても、三つの基本目標のうちの一つに「人材育成」が掲げられていますが、今後とも市内の公共ホール等を拠点として、文化芸術活動を支えていく人材の育成や支援になお一層取組んでいただき、魅力と活力に満ちたまちづくりを進めていただきたいと思います。

今回の文化アセスメントの対象としては、生誕百年を記念して多彩な企画展が実施された「岡本太郎美術館」および全国のガラス工芸を支える多くの人材を輩出してきた「川崎市のガラス工芸」を選定しました。その評価作業については、川崎市文化芸術振興会議の委員が手分けして個々のプロジェクトや施設を視察し、事業関係者、担当行政部局等からのヒアリングおよび意見交換なども実施しながら評価を進め、全体討議を経て、最終的に委員全員の合意により評価書を作成したものです。限られた時間と人的体制の中で実施されたものであり、個別には意を尽くせなかった部分も残りましたが、全体としては現時点で作成しうる最善の結果報告であると考えますので、この報告が川崎市における今後の関連施策に適切に反映されることを期待いたします。

平成２３年度文化アセスメント実施結果報告

１　対象事業及びその選定理由

（1）対象事業

Ａ　岡本太郎美術館

Ｂ　ガラス工芸振興事業

（2）対象事業の選定理由

岡本太郎美術館については、文化芸術振興計画の事業計画「1文化振興」に該当する事業であり、今年は岡本太郎生誕100年イベントが開催されるなど、注目度が高い事業であるため。

ガラス工芸振興事業については、文化芸術振興計画の事業計画「6文化と経済」に該当する事業であり、文化芸術を経済活動に取り入れ、産業の育成を行うという重要な事業であるため。

2　評価結果

A　岡本太郎美術館

（1）事業の目的・概要

担当課	川崎市岡本太郎美術館

振興計画上の位置づけ	1　文化振興	視点：①　⑤　⑥　⑦　⑧　⑨　⑩　⑪
	文化芸術、産業、スポーツ、自然などの資源や人材を活用し、市のイメージアップを図る。	
事業概要	岡本太郎及び、関連の近現代美術の資料収集・保存・調査研究等を基礎に、展覧会の開催等を行なう。2011年（平成23年）は岡本太郎生誕100年であり、これを記念し特色ある展覧会や記念イベント等を地域等と連携して推進し、岡本太郎と岡本太郎美術館の魅力を発信する。	
目　的	川崎ゆかりの芸術家・岡本太郎に関連する、魅力ある展覧会の開催等により、市民文化の振興と個性あふれる魅力あるまちづくりにつなげる。	

取　組

番号	名　称	概　要　・　目的	
A 岡本太郎 美術館	企画展	概要	①生誕100年「人間・岡本太郎展」 （前期：4/16～7/3、後期：7/7～9/25） ②芸術と科学の婚姻 虚舟（生誕百年記念展） ③「第15回岡本太郎現代芸術賞（TARO賞）」展 ※①②は、ダンス、映画、音楽、ツアー、ワークショップ等、関連イベントを多数開催
		目的	生誕百年の節目にあたり、岡本太郎に関わる人やことの紹介を通じた企画展により、人間太郎を浮かび上がらせ、本市の魅力ある資源を市内外へ発信する。
	常設展	概要	①「生誕100年 あっぱれ太郎－歓喜のシャーマニズム」展 ②「生誕100年 あっぱれ太郎－女と男と岡本太郎」展
		目的	同上
	収集・保存・貸出	概要	・数点の岡本太郎関連資料を購入。 ・受贈、また収蔵作品の修復を行なう。 ・東京国立近代美術館「岡本太郎展」へ収蔵品の貸出を行う。
		目的	岡本太郎の調査研究を進めるとともに、本館所蔵美術品を通じ市民の芸術及び文化の発展に寄与する。
	情報・刊行物	概要	・ホームページの更新 ・川崎市岡本太郎美術館ニュース「TARO」Vol.39～41 ・企画展カタログ ・パブリックアートマップ ・H22年度 美術館年報
		目的	美術館と人とのコミュニケーション作りを目指す。
	教育・普及事業	概要	・夏休み・美術館探検ツアー ・ワークショップ、ダンスイベント ・職業体験プログラム　中学・高校11校 ・出張授業　市内小・中学校9校
		目的	岡本太郎や美術館の紹介により、誰もが気軽に美術に親しめるための環境整備

	カフェ＆ｼｮｯﾌﾟ	概要	・カフェでは、オープンテラス形式の店内で、アルコールも含めた飲食物を提供 ・ショップでは、岡本太郎作品をモチーフにしたアクセサリー、生活雑貨、文具、書籍などの商品を販売。
		目的	来館者がなるべく長く滞在し、余韻に浸りながら美術観賞をより深めてもらう。また、関連グッズ・書籍の販売で、岡本太郎の世界を持ち帰り、身近なものにしてもらう。

（2）評価

取組への評価

Ａ　岡本太郎美術館

（1）事業の目的

川崎市の文化振興計画上の基本目標の一つである「文化創造」（文化芸術が様々な分野に浸透し、魅力ある創造性豊かなまちを形成していく）を達成していくうえで、「芸術家岡本太郎を中心とした美術作品及び資料の収集、展示等を行い、市民の利用に供するとともに、市民の美術に関する創造的活動を促進し、もって市民の芸術及び文化の発展に寄与する」という美術館の設置目的は、市の基本目標に合致するとともに、目標を実現させていくうえで重要な役割を担っている。美術館の目的の達成度については、入場者数などの数値のみで一概に測りきれるものではないが、市の内外への発信という面では、ホームページの内容の改善や、広報の方法など、より多くの人に知ってもらう機会を増やすことにより、入場者数を増やすことができたと考えられる。今後の運営方針について、長期的な視野に基づいた計画が求められるとともに、美術館のみならず、自然環境豊かな生田緑地をベースに、日本民家園や青少年科学館、伝統工芸館などが点在する文化地域としての素晴らしい価値を総合的に発信していくことが地域全体の底上げにつながると思われ、ワークショップや企画展で他の館と連携したプログラムを行うなど、地域全体としての取組にも期待したい。

（2）文化芸術性

岡本太郎の個性を活かした展示内容は触ったり座ったり体感できる作品が多く、一般の観客にとって親しみやすい内容であり、美術館の大きな強みである。今後の美術館運営は岡本太郎一本でいくのか、それとも現代アート全般に対象を広げるのか、学芸員の意見を十分に聞いたうえで、館の特徴を打ち出し、明確な方向性を示して運営にあたることが求められる。一方、若手芸術家の育成を担う役割として毎年TARO賞を開催しており、支援の一環として受賞作の館内での展示や過去の受賞者の企画展などが行なわれている。若手の芸術家にとっては、展示・発表の機会の提供が何よりの支援となるものであり、今後、館内にとどまらず、市関係部局と連携し、受賞作品の展示を区役所ロビーで行うなど、外に向けた展開にも期待したい。

（3）市民とのかかわり

来館者が参加できるワークショップについては、芸術への理解を深めるうえで重要な役割を担っており、観客の満足度は比較的高いと思われるが、実施結果や、アンケート等の分析については不十分な面がある。館の運営、ワークショップの実施などにおいては、来館者の声をフィードバックしていくための仕組作りが非常に重要である。例えば、ワークショップを開催するにあたっても、目標値を設定したうえで開催し、実施した結果やアンケートについての分析を行なったうえで次の事業に活かすなど、来館者の声を常に反映していくような仕組みを作っていく必要がある。一方、教育活動の面においては、開館以来、教育プログラムの一環として多くの児童が訪れており、キッズ展の開催など、将来の文化都市川崎を担う若者を育てるという役割を果たしており、評価したい。

（4）効率・効果

美術館単館としてみると、交通の便の悪さなどロケーションがいいとはいえない。そのため、生田緑地の他の文化施設と連携し、一体となった運営を計画する必要があるが、民家園から岡本太郎美術館への道しるべがわかりにくいなど、協調して誘客しようという態勢が薄いように思わる。生田緑地の指定管理者導入を機会に、生田緑地、地域の商店街などが連携し、地域全体の活性化に向けて取組んでいく体制作りが求められる。また、美術館にとって、附帯しているレストランの魅力も、館の価値向上に大きく役立つものであり、特別感を演出するメニューの提供など、魅力向上の余地を残している。

総合評価	□ A ： 継続　■ B ： 改善　□ C ： 見直し

評価の理由等

・ホームページを始めとした情報の発信力や、観客の声をフィードバックしていく仕組みに課題が残る。
・美術館として市民の認知度は決して低くは無いと思われるが、地域からの太郎美術館への来館者が少ない。地域へのアプローチが今後の課題である。
・キッズ展などの教育プログラムについては、子どもたちが岡本太郎に近づくという点でも効果的であり評価できる。
・カフェなどの附帯施設については、独自性の向上などにより誘客力に繋げる余地がある。

提言

・ホームページの改善や各種のSNSの活用などにより、世代に合わせた方法での情報発信を検討すべきである。また、発信する情報についても、美術館単体の情報だけではなく、地域全体として情報を発信し、集客に繋げる必要がある。
・近隣美術大学等との連携や、音楽大学とのコラボレーションによる敷地内でのコンサートなど、地域の教育機関と連携した事業展開を検討すべきである。
・太郎生誕100周年後の美術館運営について、明確な方向性を示して運営にあたる必要がある。太郎を中核としつつ、現代美術の新しい流れを発信するという方向性も検討すべきである。
・福祉事業と連携してバリアフリープログラムを取り入れるなど、他事業との連携・協同を積極的に行っていくべきである。
・搬入口が狭隘で他美術館との大型コラボレーションに支障あるため改善をすべきである。
・事業を行うに当たって、実施結果や来館者の声を検証し、次の事業に反映させていくための仕組みづくりが必要である。
・カフェレストランのメニューなど、附帯施設をバージョンアップすることにより、特別な空間の演出を高めるべきである。
・TARO賞の受賞者の作品の購入や、パブリックスペースでの展示など、継続的な育成支援を展開していく必要がある。

B ガラス工芸振興事業

（1）事業の目的・概要

担当課	経済労働局新産業創出担当

振興計画上の位置づけ	６ 文化と経済	視点： ①②③④⑤⑥⑧⑨⑩⑪
	ものづくり現場の人材確保・育成と技能・技術の継承を図る。	
事業概要	市内には多数の工房や製品の生産工場などガラスに関する団体・施設が存在することから、展示会の開催などを通じてガラス工芸について市内外に情報発信し、振興に取り組む。	
目　的	地域資源であるガラス工芸について広く市内外に紹介・情報発信し、ガラス工芸の普及・振興を図る。	

取　組

番号	名　称	概　要　・　目的	
B ガラス工芸	展示会開催事業	概要	市内ガラス工房の作家・生徒の作品の展示及び川崎ゆかりの企業の協力を得てガラスびんやランプなどガラス製品の展示を「かわさきガラスWORLD2012」として平成24年3月に開催する。
		目的	展示会の開催により、ガラス工芸の魅力・奥深さ・幅広さを伝える。
	振興事業	概要	・体験教室の実施 ・「ガラス工房ガイド＆マップ」の作成・配布 ・大学と連携して廃ガラスを利用したガラス製品の開発への取組
		目的	体験教室等を通して、ガラス工芸をより身近なものとして市民に広めていく。
	展開事業	概要	市内ガラス作家等から構成される懇談会の開催
		目的	今後の川崎市のガラス工芸の事業展開について、事業者・行政の会議により検討を行なう。
	広報事業	概要	・ガラス工芸ホームページ「かわさきガラスWORLD」の管理・運営 ・ホームページの新コンテンツ（市内ガラス工房）の作成 ・アゼリア「川崎市広報コーナー」においてのガラス工芸振興に関する取組の紹介やガラス作品の展示
		目的	ホームページその他により、市民にガラス工芸の魅力を発信し、市民の認知度を高める。

（2）評価

取組への評価

B ガラス工芸振興事業

（1）事業の目的

川崎市内には、規模は小さいものの、ガラス工房が点在し、日本全国の大学や学校でガラス工芸を教えている人材を輩出してきた歴史的背景もある。そういった地域の貴重な資源を残していくとともに、川崎市の産業として育て、全国に発信していこうというこれまでの取組は評価したい。しかし一方で、今後、川崎のガラス工芸をどう発展させたいのかという将来展望や目的、目標設定について、具体性に欠ける面がある。特に、産業としての裾野を広げない事には、事業経営の拡大展開や新人への職場創出も望めないため、今後の発展のためにも、より長期的かつ具体的な産業振興策のロードマップを作成する必要がある。

（2）文化芸術性

独創性や芸術性については、個々の作り手の表現力等によるものであり、川崎のガラス工芸全体を一概に評価できるものでは無いが、全国にかわさきガラスをアピールしていくには、かわさきガラスとしてのオリジナリティ、他地域のガラス工芸との差別化が必要である。また、文化や芸術は、美術展の開催やコンペの実施などによって、人の目に触れる機会を増やすことで、担い手が育ち、ガラス作品の質を高めることができるものであり、このような機会を増やしていく努力が求められる。

（3）市民とのかかわり

体験教室などに参加した市民のアンケート内容も好評であり、ガラス工芸についての潜在的な関心の高さや、魅力が伺える。しかし、これらの事業や、かわさきガラスの存在について、市民の中にも知らない人は多いと思われ、認知度は低い。ガラスワールド展についても、せっかくの取り組みながら、告知が不十分なために、入場者についてもやや少ない印象であった。関係者だけではなく、広く一般の市民に知らせる工夫が必要であり、ホームページの見直しや、市のシティーセールス部門との協働を強化していくべきである。

（4）効率・効果

市の産業・観光資源として発展させていくには、かわさきガラスに対する市の予算規模は少なく、人材育成と産業化の長期的な視点に立った支援が見られない。市内に点在するガラス工房を総合的にプロモートし、効果的に発信していくためには、作家、事業者達の個々の活動だけでは限界があり、行政も含めた市内の事業者の連携が求められる。そのため、年一回の展示会だけでな

総合評価	□ A ： 継続　■ B ： 改善　□ C ： 見直し

評価の理由等

・長年に渡り民間企業が中心となって人材育成を続けてきたことが、現在の川崎のガラス産業を支えており、評価したい。
・かわさきガラスに対する市民の認知度はやや低く、発信力の強化が課題である。
・関係者間において、現状の問題点等への認識は共有されているが、それに対する行政の具体的な対応策、工程等が不明確である。
・体験教室等については、受講者の満足度も高く、周知にも貢献していると思われる。

提言

・将来のあるべき姿・中長期目標に向け、産業だけではなく、文化やまちづくりに結びつけた具体的工程表の策定が必要である。
・市民ミュージアムやミューザ川崎などの文化施設、市民館等での展示などにより地域への浸透をはかるべきである。
・かわさきガラスを発信するための常設の展示・販売を行える拠点を整備すべきである。また、長期的には、産業・教育・文化・観光の拠点としての一元的な整備の可能性についても検討することが望ましい。
・ガラスワールド展については、展示の照明、レイアウト共に改善の余地がある。また、その場でガラス製品の販売を行うなど、より身近なものにする工夫が必要である。
・かわさきガラスを打ち出すのであれば、その特徴について、他地域のガラス工芸との差別化が必要である。
・「かわさきガラスWORLD」ホームページを見易く、更に魅力あるものへの見直し、より広報を充実していくべきである。
・市の公共建築物にガラス工芸を取り入れるなど、市としてかわさきガラスを積極的に活用していくための検討が求められる。

平成23年度文化アセスメント実施結果報告書
2012（平成24）年9月
川崎市文化芸術振興会議

（事務局） 川崎市市民・こども局市民文化室
〒210－8577 川崎市川崎区宮本町1番地
電話 044－200－2029
FAX 044－200－3248